



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2005 MFJ ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP Rd.5
SUPERBIKE RACE in SUGO



文部科学大臣杯 2005年 MFJ 全日本ロードレース選手権第5戦スーパーバイクレース in SUGO

EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

5



Photo by H.Wakita(c)



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

6人がコースレコードをマークするハイレベルな予選を制して 伊藤真一、貫禄のポールポジション獲得!!

長い夏休みを経て、3カ月振りの全日本開催だ。JSBクラスは今回が5戦目。ランキングトップは元全日本チャンピオン、グランプリライダーの伊藤真一(ホンダドリームRT)。5戦中2勝し、2位以下を大きく引き離している。この3カ月間、鈴鹿300km耐久と8耐があり、伊藤は8耐に出場、3年連続のポールポジションを獲得し、今、国内で一番速いライダーであることを大舞台で証明した。

ランキング2位には、優勝こそないものの、2回の2位入賞など、安定して上位でチェッカーを受けているベテラン柳川明(TEAM GREEN)。8耐に出場していない柳川だけに、3カ月間のテスト期間は十分なインターバルと言える。柳川に続くランキング3位は筑波、オートポリスと2連勝し、伊藤の昨年から続く連覇をストップさせた中富伸一(YSP&PRESTOレーシング)。今季、最も成長しているライダーとして、注目株だ。

予選が1時間、1回のみというスケジュール

が今シーズン途中から採用されたため、今回もJSBは13時25分から1時間のセッションで戦われた。また、金曜日の特別走行日は雨に見舞われたため、1時間の予選時間内でセッティングを詰め、タイムを出さなければならない。

予選開始と共に、各車とも積極的にタイムを出していく。まず5周目、伊藤が1分29秒663をマークしリーダーボードのトップに、続いて6周目、中富が29秒777で2番手につける。その後ろ、山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)、柳川、松戸直樹(モリワキMOTULタイガーレーシング)、亀谷長純(チーム 桜井ホンダ)、渡辺篤(ヨシムラスズキジョモスリクソン)までが序盤に30秒台に入れている。

予選時間の半分、30分が経過したころ、山口が29秒798をマーク。さらに数周、決勝ペースと思われる速い周回を続け、29秒715で2位に浮上した。しかし、三人ともまだ1分29秒台後半のタイムで、どのライダーもピットインを繰り返して、セッティングに集中している状態。

残り13分、まず亀谷が動いた。タイムアタックを開始し、コースレコードを破る1分29秒072をマーク、リーダーボードのトップに躍り出た。残り10分を切り、タイムアタック合戦が始まった。渡辺29秒142で2番手に、さらに中富が1分29秒215、小西良輝(プレクサス&HARC-PRO)が1分29秒371と、続々と1分29秒台前半のタイムをたたき出す。この時点で亀谷、渡辺、中富、小西、伊藤、山口の順。残り5分を切って、今度は山口が29秒281をマークして4番手に浮上。そして最後の最後、主役が登場した。伊藤がきたのだ。1分28秒890というタイムで一気にトップに躍り出た。そしてチェッカー。一人28秒台をマークして今季3度目のポールポジションを獲得した。亀谷が2番手、3番手に渡辺、最後のフロントロウは中富が入った。

【青木 淳】



楽しみ方いろいろ。
MFJ SUPERBIKEの情報満載



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

GAORA(CS放送)で全戦放映!!

地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!

ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。

詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!

13人がコースレコードを更新! 酒井大作が2戦連続P.P.奪取!



今シーズンもハイレベルな戦いが繰り広げられているST600クラス。毎回、コースレコードが更新されているが、今回も、それを約1秒更新するタイムがマークされた。3月にアスファルトが張り替えられ、路面のグリップが上がっていることもあり、事前テストからコースレコードを更新しているという情報は耳に入ってきていた。これまでのレコードは、昨年、辻村猛がマークした1分34秒150だが、テストでは、1分33秒フラットまでいっているライダーが何人かいた。そ

れだけに、今回のポールタイムは1分32秒台となることが予想された。しかし、金曜日の走行が台風の影響で雨模様となり、予選1回目も、ウェットパッチが残るコンディション。さらに気温も上昇したことから、決して状況はよくない。それでも13人がコースレコードを更新。これは、マシンのポテンシャルが大幅に向上していることを示している。

予選を制したのは、予選2回目のアタックにかけた酒井大作。1分33秒229と、本人が目標としていた1分32秒台には届かなかったが、堂々の2戦連続ポールポジション獲得となった。「予選は、優勝するためにいろいろ作戦を考えながらの走行だった。テストでは33秒フラットで周回できていたので、32秒台に入れたかった」とタイムには不満げだったが、決勝に自信をのぞかせる。8耐ですばらしい走りを見せた徳留和樹が2番手。3番手につけた大崎誠之は「前回は勝負できずに3位だったけど、今回はいけそう。レース終盤が勝負だろうね」とこちらも準備万端。ランキングトップの安田毅史は4番手、ランキング2位の手島雄介が5番手と続いた。ディフェンディングチャンプの辻村猛は、14番手とややセットアップに苦戦しているようだ。

いずれもトップから僅差で続いているだけに、決勝は混戦になるのは必至。10台以上のトップグループとなる可能性が高いだろう。最終ラップに10%勾配をトップで駆け上がってくのは!?

【佐藤 寿宏】

写真(上):酒井大作 (下):徳留和樹

世界を目指す青山周平が4戦連続ポールポジション 誰が周平を止めるのか!?



3カ月ぶりのレースとなる第5戦SUGO。前半戦では、前評判通り青山周平が2勝を挙げシリーズを引っ張っている。これに全日本GP250デビュー戦となる開幕戦を制した高橋紀、第3戦筑波で2位に入賞した高橋巧とティーンエイジャーの健闘が光った。これに対し、青山の対抗馬と見られていた横江竜司、徳留真紀、及川誠人などのベテラン勢が出遅れていたが、第4戦オートボリスでようやく本

調子に戻ってきた。

今回の予選もGP250クラスは、オートボリスに引き続き1セッション55分で争われた。コースレコードの更新に並々ならぬ意気込みを見せていた周平は、セッション中盤で1分31秒144をマーク。セッション終盤でのレコード更新に期待が集まったが、終了5分前にホームストレートで転倒があり、赤旗中断。すぐにセッションは再開されるが、青山はタイムを更新できずに終わる。「事前テストのときは、路面コンディションが変わってしまい、リアのスライドが止まらなかった。コースレコードを更新できなくて悔しい。決勝は、転んでもいいからレコードを狙っていきたい」と悔しさをあらわにした。それでも周平は、2番手を約1秒も引き離すタイムで4戦連続ポールポジションを獲得。今季3勝目を目指す。2番手にSUGOがホームコースの横江がつけ、徳留、高橋、ラタパー・ヴィライローと、ここまでが1分32秒台で続いた。

レースは周平が主導権を握りそうだ。これに横江、徳留のベテラン勢、高橋、ラタパーのティーンエイジャーが、どこまでついていけるかが見物だ。

【佐藤 寿宏】

写真(上):青山周平 (下):横江竜司

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

【青木 淳】 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。
【佐藤 寿宏】 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年はMotoGPにも参戦(※ライターで)。
【川岸 健二】 ロードレース専門誌『サイクルサウンド編集部』に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

ベテランvs新世代。 ここSUGOで新気流が始まる予感



約3ヶ月の沈黙を破って、後半戦がスタートした。前半戦は昨年王者の仲城英幸が予想外の苦戦を強いられ、対抗馬の菊池寛幸がポイントリーダーの座を守って折り返した。菊池は6ポイント差でランキング2位に付けるヤマハのエース、井手敏男と談笑しながら「一戦一戦確実に戦っていくだけです」と気負う素振りを見せなかったが、そこではベテラン勢同士の駆け引きが始まっていた。SUGOはヤマハのホームサーキットであり、井手にとってもここで勝利を収め、ポイン

ト差を詰めたい所だ。

ランキング3位の小室旭は昨年のSUGOラウンドで2位の成績を残しており、得意のSUGOで全日本初勝利を狙っている。同ポイントの竹内吉弘も好調だ。

一方、前半戦で出遅れた仲城は「優勝を狙います」ときっぱり言い放った。仲城が逆転タイトルを手にするには、少なくとも後半戦で圧勝し、ライバルの出方を待つことになるが、卓越したトップスピードを誇るJhaチューンRS125Rはそれだけでライバルにプレッシャーを与えており、その可能性は皆無ではない。

予選は、2回目の終了10分前から熾烈なタイムアタック合戦が開始され、最後に菊池が逆転でポールポジションを手にした。2番手には僅差で井手がつけ、ベテラン同士一歩も譲らない。しかし3、4番手に日本GPへのワイルドカード参戦を予定している19歳の濱本裕基、21歳の葛原大陽と続き、5番手はスポット参戦の超新星、13歳の中上貴晶とヤングパワーが爆発した。予選上位のタイム差がほとんどないことから、決勝は大混戦が予想されるが、ここでは普段と一風違う若手の台頭が見られそう。ベテランが若手の挑戦を退けるのか、それとも若手がベテランに引導を渡すのか。ここでの勝者が残り3レースの主導権を握ることになるだろう。

【川岸 健二】

写真(上): 菊池寛幸 (下): 濱本裕基

8/28(日)決勝日イベント情報



※イベントは変更または中止されることがあります。
※写真はイメージです。

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンDEMツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

恒例のキャンギャルオンステージと優勝ライダーインタビュー(予定)をパaddock入口特設ステージで開催。

キャンギャルオンステージ

●時間: 1回目 9:15 ~ ・ 2回目 11:40 ~

優勝ライダーインタビュー(予定)

●時間: 16:00 ~

ライダー・キャンギャル・マシンを間近で見られるピットウォーク、その間コース上ではキッズパレードも開催します。

ピットウォーク

Kidsバイクパレードもコース上で開催

●時間: 12:50 ~ 13:35

全日本ロードレース選手権恒例のサーキット体験走行

サーキットクルージング

●時間: 16:45 ~ (走行無料・保険料500円必要)

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オフィシャルファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERSとして新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたパスを販売しています



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL: 0285-45-8465 (AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

R/DING SPORT

毎月24日発売

2005年10月号<No.273>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS EXCITING
ROADSPORTS
MAGAZINE

月刊サイクルサ운ズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂